

2019年度 卒業時アンケート集計結果

人間社会学部

「卒業時アンケート」実施に際し、各学科のご協力をたまり、誠にありがとうございました。集計結果をご報告いたします。

このアンケートでは、卒業予定者を対象に、大学、学部、学科、それぞれの学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)について、「身についたと思いますか」という意識調査をしております。同時に、「日本女子大学で学んで良かったと思いますか?」、「学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか?」という質問をいたしました。

なお、大学、学部、学科のディプロマ・ポリシーにつきましては、その回答の平均値を経年比較しております。文言の変更がある項目については、内容の似ているものはそのまま比較を行っておりますが、新規のDPIについては、比較から外している項目もあります。また、内容に変更・結合・分離等がある項目のうち、比較が可能と判断した項目については、注釈を付して集計いたしました。自由記述箇所につきましては、学生の記載原文を記載しております。(注:2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」を選択肢としていました。)

本件につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、大学改革推進室IR推進室までお願いいたします。

※集計結果の公表について

・集計結果は、以下の大学改革推進室HPにて閲覧いただけます(ただし、専任教職員のみ学内で閲覧可)。

※学生へのフィードバックについて

・対象学生が結果を閲覧できるのは、JASMINE-Navilにアクセス可能な「3月20日」までとなります。

・対象学生は、自身の所属学部の集計結果(PDF)を閲覧することができます。

目次

1. 人間社会学部 (全体)	2
2. 人間社会学部 現代社会学科	4
3. 人間社会学部 社会福祉学科	6
4. 人間社会学部 教育学科	8
5. 人間社会学部 心理学科	10
6. 人間社会学部 文化学科	12

<2019年度回答率>

学部	学科	専攻	2019年5月1日 4年次在籍者数	回答数	回答率
家政	児童		101	93	92.1%
	食物	食物学	33	32	97.0%
		管理栄養士	48	47	97.9%
	住居	居住環境デザイン	61	52	85.2%
		建築デザイン	41	32	78.0%
	被服		102	85	83.3%
	家政経済		91	83	91.2%
計		477	424	88.9%	
文	日本文		133	114	85.7%
	英文		192	155	80.7%
	史		100	73	73.0%
	計		425	342	80.5%
人間社会	現代社会		96	90	93.8%
	社会福祉		109	70	64.2%
	教育		100	90	90.0%
	心理		87	77	88.5%
	文化		141	87	61.7%
	計		533	414	77.7%
理	数物科		87	69	79.3%
	物質生物科		100	89	89.0%
	計		187	158	84.5%
学部合計 (通学課程全体)			1,622	1,338	82.5%

1. 人間社会学部 (全体)

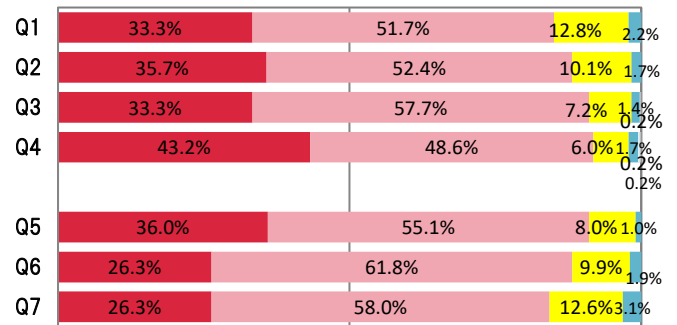
(回収率: 77.7%)

＜身についたと思いますか＞

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 人間社会学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることことができる。
Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことことができる。

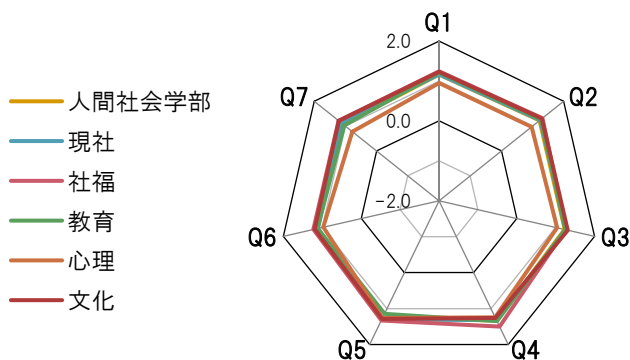
2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
強く思う	138	148	138	179	149	109	109
思う	214	217	239	201	228	256	240
どちらともいえない	53	42	30	25	33	41	52
思わない	9	7	6	7	4	8	13
全く思わない	0	0	0	1	0	0	0
無回答	0	0	1	1	0	0	0

■ 強く思う
 ■ 思う
 ■ どちらともいえない
 ■ 思わない
 ■ 全く思わない
 ■ 無回答



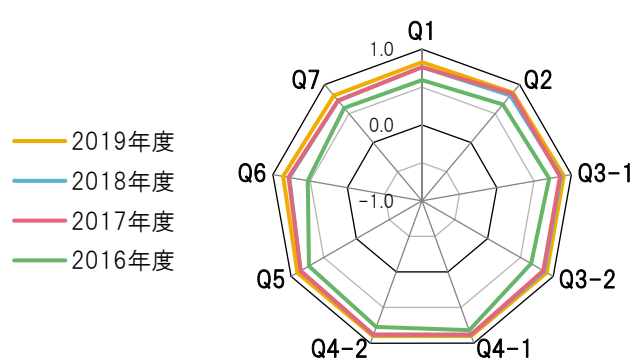
2019年度人間社会学部平均

※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値(「無回答」は集計から除外)



2016～2019年度人間社会学部平均

※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値(「無回答」は集計から除外)
 ※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

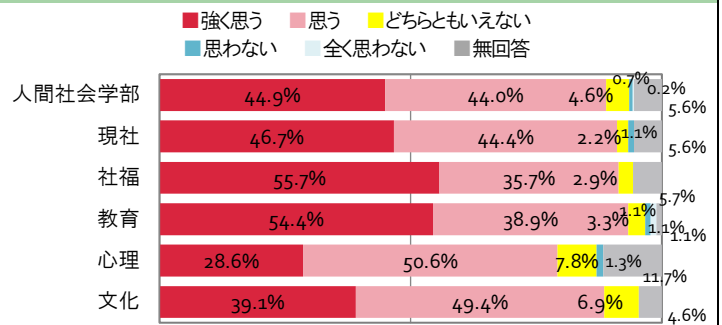


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。	Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。	Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3-1	専門的知識と教養教育をバランスよく学び、豊かな知性と感性を身につける。	Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q3-2	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。	Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
Q4-1	他者に対する共感の気持ちをもつことができる。	Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
Q4-2	まわりの人びとと円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。	Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることことができる。
Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。	Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことことができる。
Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることことができる。		
Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことことができる。		

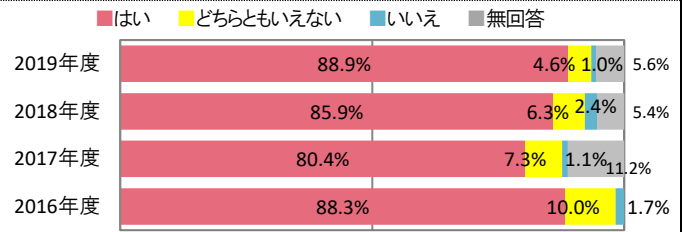
◇日本女子大学で学んで良かったと思えますか？（2013年度から調査している項目）

2019年度	人間社会学部	現社	社福	教育	心理	文化
強く思う	186	42	39	49	22	34
思う	182	40	25	35	39	43
どちらともいえない	19	2	2	3	6	6
思わない	3	1	0	1	1	0
全く思わない	1	0	0	1	0	0
無回答	23	5	4	1	9	4

(人)



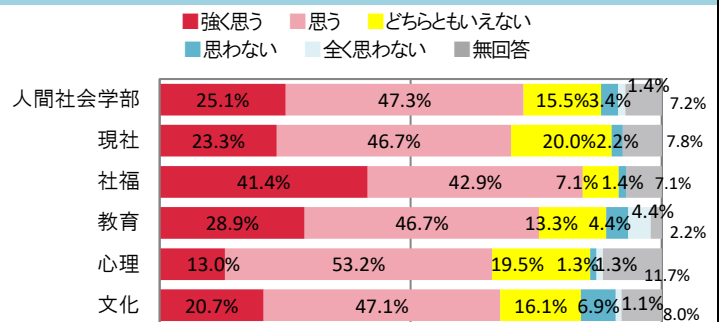
人間社会学部	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	186	154	142	355
	思う	182	243	211	
どちらともいえない	どちらともいえない	19	29	32	40
	思わない	3	5	4	
いいえ	全く思わない	1	6	1	7
	無回答	23	25	49	



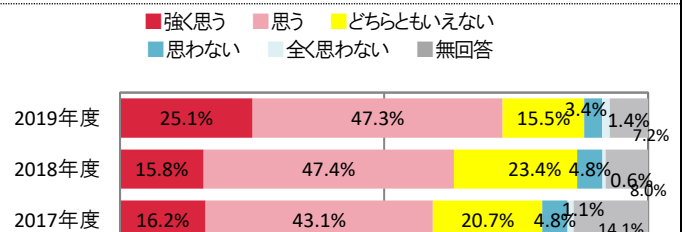
※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

◇学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思えますか？（2017年度からの調査項目）

2019年度	人間社会学部	現社	社福	教育	心理	文化
強く思う	104	21	29	26	10	18
思う	196	42	30	42	41	41
どちらともいえない	64	18	5	12	15	14
思わない	14	2	1	4	1	6
全く思わない	6	0	0	4	1	1
無回答	30	7	5	2	9	7



人間社会学部	2019年度	2018	2017
強く思う	104	73	71
思う	196	219	189
どちらともいえない	64	108	91
思わない	14	22	21
全く思わない	6	3	5
無回答	30	37	62

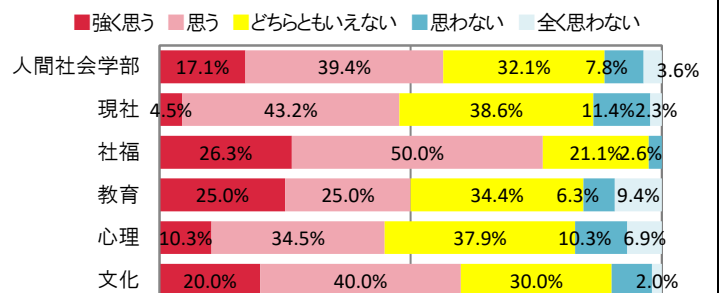


※キャリア女性学副専攻修了者のみ回答

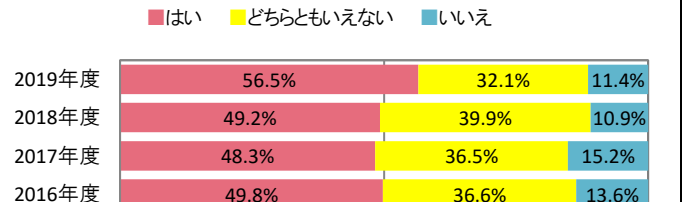
★キャリア女性学副専攻はキャリア設計に役に立ったと思う。

2019年度	人間社会学部	現社	社福	教育	心理	文化
強く思う	33	2	10	8	3	10
思う	76	19	19	8	10	20
どちらともいえない	62	17	8	11	11	15
思わない	15	5	1	2	3	4
全く思わない	7	1	0	3	2	1

(人)



人間社会学部	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	33	25	19	136
	思う	76	70	67	
どちらともいえない	どちらともいえない	62	77	65	100
	思わない	15	11	15	
いいえ	全く思わない	7	10	12	37



※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

2. 人間社会学部 現代社会学科

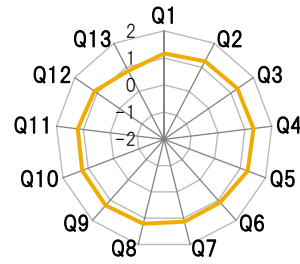
(回収率:93.8%)

＜身についたと思いますか＞

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 人間社会学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることことができる。
Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことができる。
◆ 現代社会学科の学位授与方針(DP)	
Q8	社会学、歴史学、経済学、人類学等の専門的科学的理論と方法に関する幅広い知見を身に付け、そのうちいずれかを援用して、特定の対象や問題関心を追究することができる。そのことで現代社会の広がりに対する感覚と認識を身に付けている。
Q9	現代社会の諸現象を、客観的視点から分析、思考することができる。またそのことによって解決すべき課題とその方向性を判断できる。
Q10	現代社会の諸問題に強い関心を持ち、それを解決しようとする高い意欲と倫理的態度を有している。
Q11	社会科学的に適切な問題意識から、社会的諸問題を自らの視点で論文やレポートにまとめ、論じることができる。あるいはまた、一定程度の現場調査能力・データ分析能力を修得し、上記の問題を実証的に分析し、論文やレポートにまとめ、論じることができる。
Q12	現代社会の構造を知るため、その中に自己を位置づけ対象化する能力を持ち、社会と自己の関係を表現する力を備え、それによって他者と討議交流することができる。
Q13	日本語及び外国語を運用する能力を持ち、文献・資料を的確かつ批判的に解読することができる。

2019年度現代社会学科平均

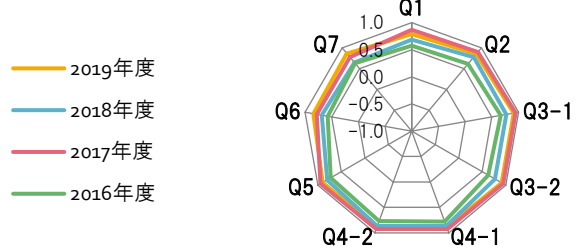
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



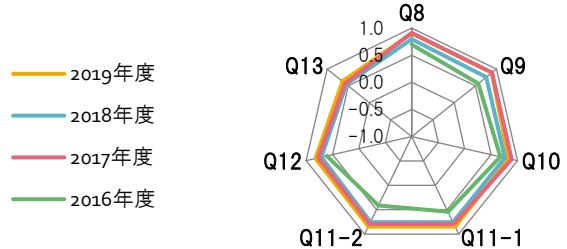
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4) ・ 人間社会学部DP(5~7)



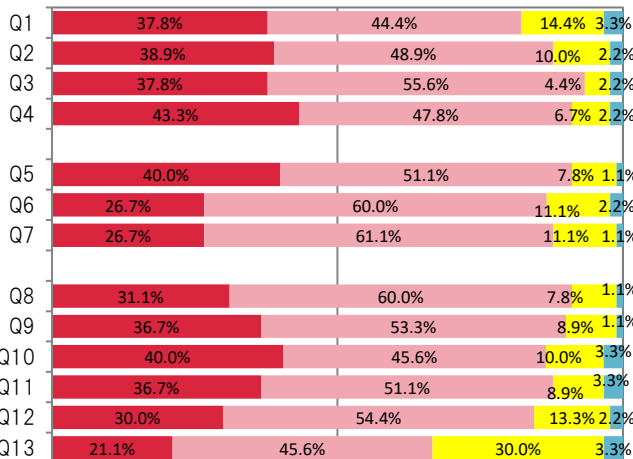
現代社会学科DP(8~13)



(人)

2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13
強く思う	34	35	34	39	36	24	24	28	33	36	33	27	19
思う	40	44	50	43	46	54	55	54	48	41	46	49	41
どちらともいえない	13	9	4	6	7	10	10	7	8	9	8	12	27
思わない	3	2	2	2	1	2	1	1	1	3	3	2	3
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない ■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

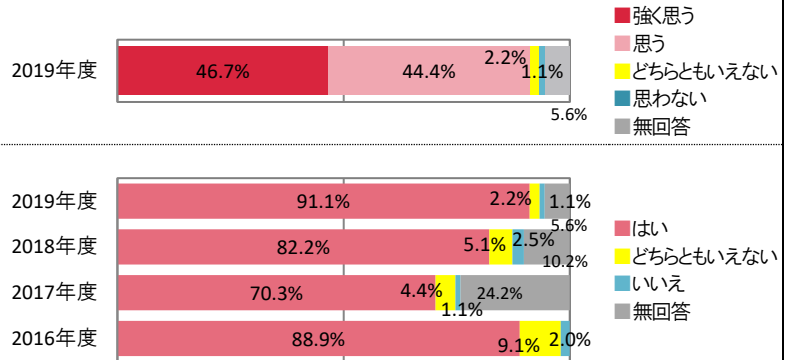


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	現代社会の仕組みと動向に関して、社会学、歴史学、経済学、政治学、地理学、人類学などのいずれかひとつの専門に軸足を置いて構造的に理解しており、しかも、その社会理解には学際的な広い視野が必要であることを認識している。	Q8	社会学、歴史学、経済学、人類学等の専門諸科学的理論と方法に関する幅広い知見を身に付け、そのうちいずれかを援用して、特定の対象や問題関心を追究することができる。そのことで現代社会の広がりに対する感覚と認識を身に付けている。
Q9	現在進行形の現代社会の現象を、社会科学的な実証性を持って分析でき、その結果社会の抱える問題状況への客観的な視点に裏打ちされた批判思考を持っている。現代社会の要諦がわかることで、解決すべき問題と解決の方向性を判断できる。	Q9	現代社会の諸現象を、客観的視点から分析、思考することができる。またそのことによって解決すべき課題とその方向性を判断できる。
Q10	現代社会の諸問題に強い関心を持ち、それを解決しようとする能力に裏打ちされた高い意欲を有している。	Q10	現代社会の諸問題に強い関心を持ち、それを解決しようとする高い意欲と倫理的態度を有している。
Q11-1	問題意識の発見からその対象への調査を自らの力で行う方法を身につけているので、現実社会の実相と向き、社会的問題の問題解決への高いモチベーションを獲得している。	Q11	社会科学的に適切な問題意識から、社会的諸問題を自らの視点で論文やレポートにまとめ、論じることができる。あるいはまた、一定程度の現場調査能力・データ分析能力を修得し、上記の問題を実証的に分析し、論文やレポートにまとめ、論じることができる。
Q11-2	社会科学的な実証分析能力として、問題意識獲得能力、現場調査能力、データ分析・統合能力を習得している。	Q11	社会科学的に適切な問題意識から、社会的諸問題を自らの視点で論文やレポートにまとめ、論じることができる。あるいはまた、一定程度の現場調査能力・データ分析能力を修得し、上記の問題を実証的に分析し、論文やレポートにまとめ、論じることができる。
Q12	現代社会の構造を知る故に、現代社会の中に生きる自己を位置づける対象化能力、そして社会と自己の関係を表現する力、さらにそれによって他者と討議交流する能力を有している。	Q12	現代社会の構造を知るため、その中に自己を位置づけ対象化する能力を持ち、社会と自己の関係を表現する力を備え、それによって他者と討議交流することができる。
Q13		Q13	日本語及び外国語を運用する能力を持ち、文献・資料を的確かつ批判的に解読することができる。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

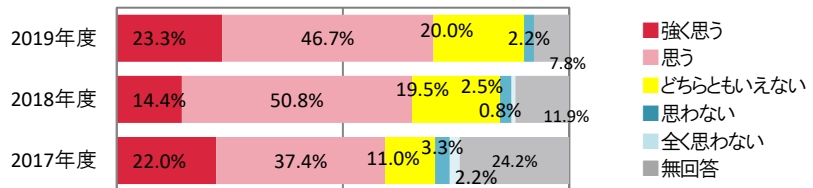
現社	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	42	38	27	88
	思う	40	59	37	
どちらともいえない	どちらともいえない	2	6	4	9
	思わない	1	1	1	
いいえ	全く思わない	0	2	0	2
	無回答	5	12	22	

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

現社	2019年度	2018	2017
強く思う	21	17	20
思う	42	60	34
どちらともいえない	18	23	10
思わない	2	3	3
全く思わない	0	1	2
無回答	7	14	22

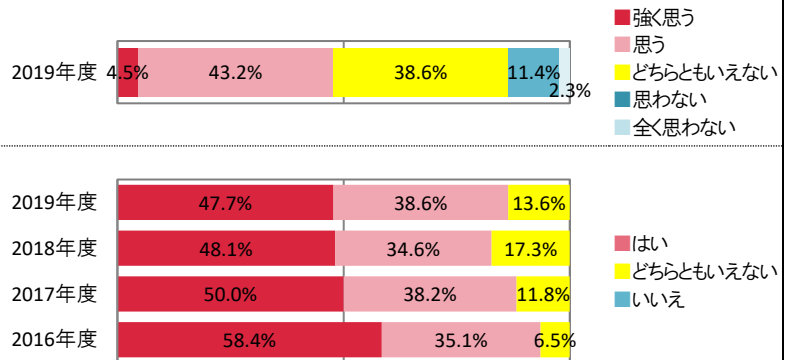


※キャリア女性学副専攻修了者のみ回答

★キャリア女性学副専攻はキャリア設計に役に立ったと思う。

現社	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	2	6	6	45
	思う	19	19	11	
どちらともいえない	どちらともいえない	17	18	13	27
	思わない	5	7	4	
いいえ	全く思わない	1	2	0	5
	無回答	0	0	0	

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



3. 人間社会学部 社会福祉学科

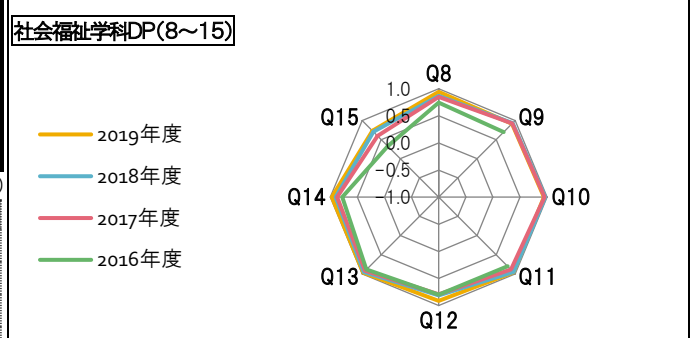
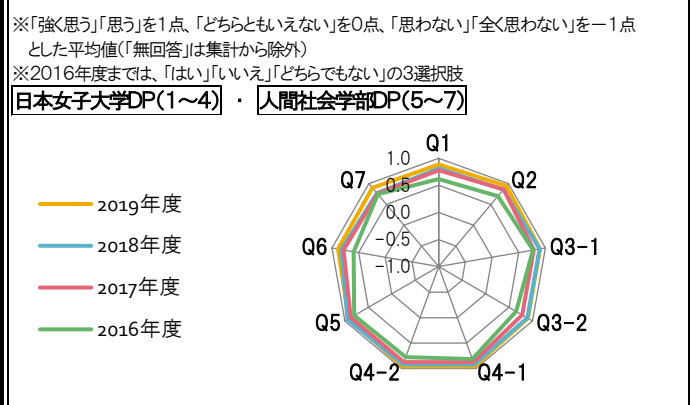
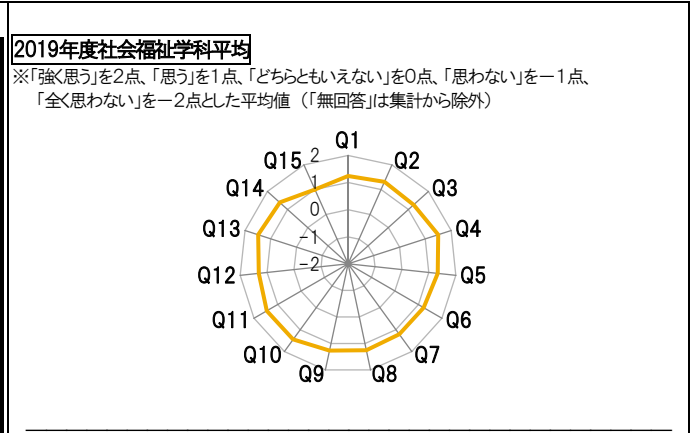
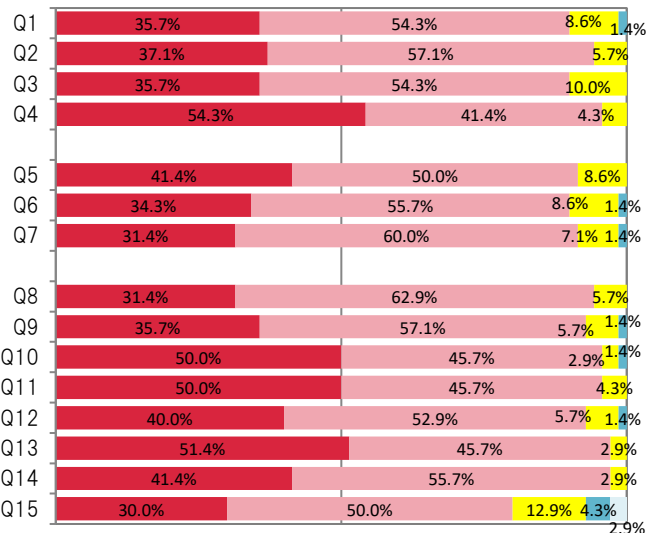
(回収率:64.2%)

＜身についたと思いますか＞

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 人間社会学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることことができる。
Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことができる。
◆ 社会福祉学科の学位授与方針(DP)	
Q8	生活上の諸問題、社会福祉の基本的な構造や機能、人間行動や社会システムとの関係性について理解し、社会問題の解決に向けた実践に生かすことができる。
Q9	人々の生活上の諸問題について、社会構造的要因分析の視点を持つことができる。
Q10	多様な価値観を受け入れ、共生社会を構築するための寛容性を身に付け、そうした社会づくりに向け、他者と協働しながら思考することができる。
Q11	社会のあらゆる生活問題に関心を持つことができる。
Q12	人権と社会正義の原理に基づいた援助観を身に付け、行動できる。
Q13	他者に対する共感的態度を持つことができる。
Q14	他者と協働して課題に取り組むことができる。
Q15	援助者(ソーシャルワーカー)としての基本的技能や価値・倫理を身に付け、実践することができる。

2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
強く思う	25	26	25	38	29	24	22	22	25	35	35	28	36	29	21
思う	38	40	38	29	35	39	42	44	40	32	32	37	32	39	35
どちらともいえない	6	4	7	3	6	6	5	4	4	2	3	4	2	2	9
思わない	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	3
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない ■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

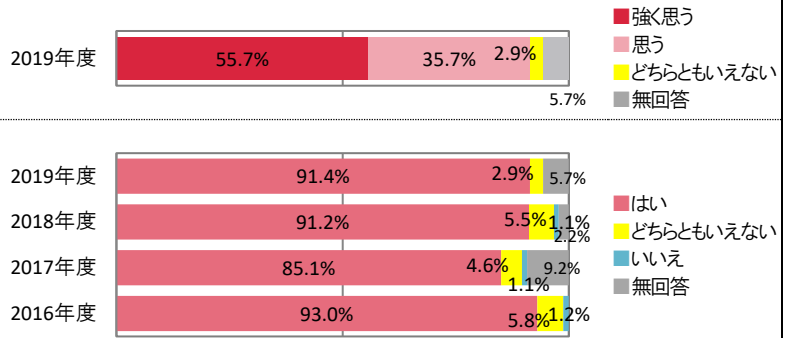


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	生活上の諸問題、社会福祉の基本的な構造や機能、人間行動や社会システムとの関係性について理解できるようになる。	Q8	生活上の諸問題、社会福祉の基本的な構造や機能、人間行動や社会システムとの関係性について理解し、社会問題の解決に向けた実践に生かすことができる。
Q9	人々の生活上の問題について、社会構造的要因分析の視点を持つことができる。	Q9	人々の生活上の諸問題について、社会構造的要因分析の視点を持つことができる。
Q10		Q10	多様な価値観を受け入れ、共生社会を構築するための寛容性を身に付け、そうした社会づくりに向け、他者と協働しながら思考することができる。
Q11	社会のあらゆる生活問題に関心を持つことができる。人権と社会正義の原理に基づいた援助観を身に付けている。	Q11	社会のあらゆる生活問題に関心を持つことができる。
Q12	社会のあらゆる生活問題に関心を持つことができる。人権と社会正義の原理に基づいた援助観を身に付けている。	Q12	人権と社会正義の原理に基づいた援助観を身に付け、行動できる。
Q13	他者に対する共感的態度を持つことができる。	Q13	他者に対する共感的態度を持つことができる。
Q14	他者と協働して課題に取り組むことができる。	Q14	他者と協働して課題に取り組むことができる。
Q15	援助者(ソーシャルワーカー)としての基本的技能を身に付けている。	Q15	援助者(ソーシャルワーカー)としての基本的技能や価値・倫理を身に付け、実践することができる。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

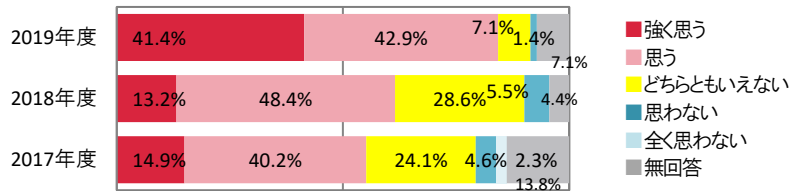
社福	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	39	31	25	80
	思う	25	52	49	
どちらともいえない	どちらともいえない	2	5	4	5
	思わない	0	1	0	
いいえ	全く思わない	0	0	1	1
	無回答	4	2	8	

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

社福	2019年度	2018	2017
強く思う	29	12	13
思う	30	44	35
どちらともいえない	5	26	21
思わない	1	5	4
全く思わない	0	0	2
無回答	5	4	12

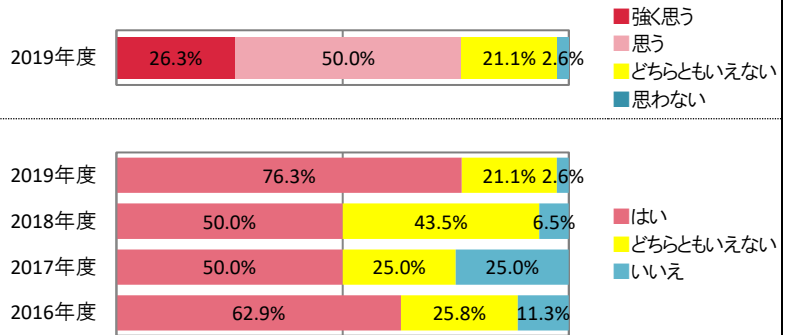


※キャリア女性学副専攻修了者のみ回答

★キャリア女性学副専攻はキャリア設計に役に立ったと思う。

社福	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	10	6	5	39
	思う	19	17	15	
どちらともいえない	どちらともいえない	8	20	10	16
	思わない	1	1	6	
いいえ	全く思わない	0	2	4	7

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



4. 人間社会学部 教育学科

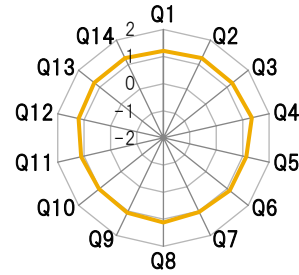
(回収率:90.0%)

<身についたと思いますか>

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 人間社会学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることができる。
Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことができる。
◆ 教育学科の学位授与方針(DP)	
Q8	教育に関する哲学、歴史学、社会学、心理学の各理論と方法論を学び、教育的な知識及び視点を修得している。
Q9	教育に関わる事象や問題について、教育的な視点及び方法論を活用して、分析的かつ統合的に理解することができる。
Q10	教育に関わる事象や諸問題の背景やメカニズムについて教育的な観点や方法論を用いて分析・考察することができる。
Q11	教育実践に関わる諸問題に対して、教育的知識に基づきながら解決の方向性を探究し、幅広い視野に立って判断を行うことができる。
Q12	現代の教育問題に専門的な視点からの関心を持つと同時に、真摯に向き合う意欲を有している。
Q13	自発的・能動的に学修を進め、生涯にわたり自己を高めて社会に貢献していくとする意欲や態度を有している。
Q14	人が育つ、人を育てるという教育的営みに必要な相互対話的コミュニケーションを行うための技能と表現力を修得している。

2019年度教育学科平均

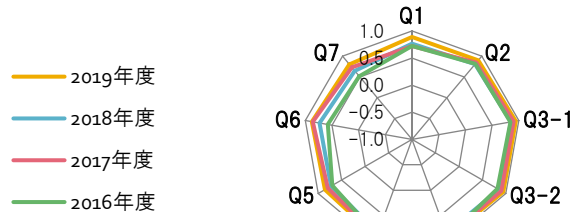
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



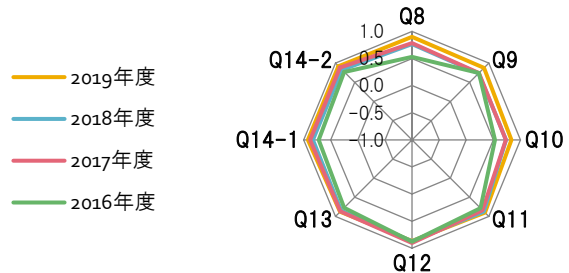
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・人間社会学部DP(5~7)



教育学科DP(8~14)



(人)

2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
強く思う	29	33	27	38	26	22	21	21	17	18	19	31	34	31
思う	53	49	58	46	53	60	54	62	65	60	65	51	48	54
どちらともいえない	6	7	3	3	9	5	12	5	5	9	3	4	5	3
思わない	2	1	1	2	2	3	3	1	3	3	3	4	3	2
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない
■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

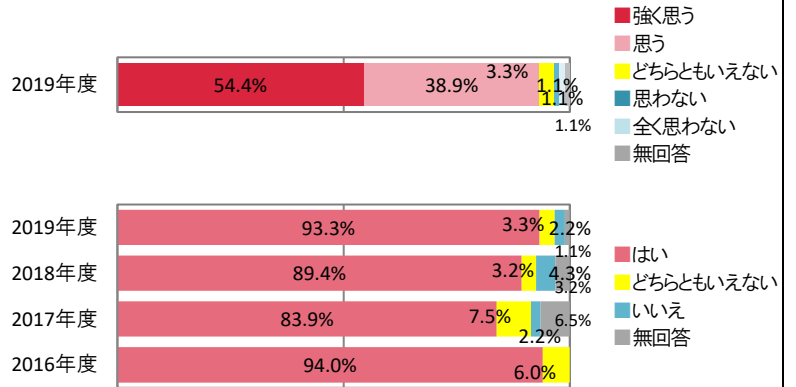


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	教育に関する様々な事象について、哲学・歴史学・社会学・心理学などの方法論を用いて分析することができる。	Q8	教育に関する哲学、歴史学、社会学、心理学の各理論と方法論を学び、教育的な知識及び視点を修得している。
Q9	人間と社会、及び両者の関わりについて、教育的な観点から考察することができる。	Q9	教育に関わる事象や問題について、教育的な視点及び方法論を活用して、分析的かつ統合的に理解することができる。
Q10	教育に関する様々な事象について、哲学・歴史学・社会学・心理学などの方法論を用いて分析することができる。	Q10	教育に関わる事象や諸問題の背景やメカニズムについて教育的な観点や方法論を用いて分析・考察することができる。
Q11	教育に関する様々な事象について、抽象と具体の両面から思考を深め、幅広い視野に立って適切な判断を行うことができる。	Q11	教育実践に関わる諸問題に対して、教育的知識に基づきながら解決の方向性を探究し、幅広い視野に立って判断を行うことができる。
Q12	現代の教育問題に真摯に向き合う意欲や、専門的な視点からの関心を持つこと	Q12	現代の教育問題に専門的な視点からの関心を持つと同時に、真摯に向き合う意欲を有している。
Q13	生涯にわたり、自発的に学習を進めることができる。	Q13	自発的・能動的に学修を進め、生涯にわたり自己を高めて社会に貢献していくとする意欲や態度を有している。
Q14-1	人が育つ、人を育てるという営みを、様々な方法論を通じて学ぶことができる。	Q14	人が育つ、人を育てるという教育的営みに必要な相互対話的コミュニケーションを行うための技能と表現力を修得している。
Q14-2	相互に適切なコミュニケーションを行うための表現能力を高めることができる。		

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

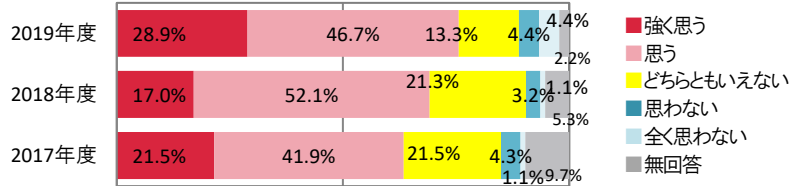
教育	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	49	29	40	78
	思う	35	55	38	
どちらともいえない	どちらともいえない	3	3	7	5
	思わない	1	1	2	0
いいえ	全く思わない	1	3	0	0
	無回答	1	3	6	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

教育	2019年度	2018	2017
強く思う	26	16	20
思う	42	49	39
どちらともいえない	12	20	20
思わない	4	3	4
全く思わない	4	1	1
無回答	2	5	9

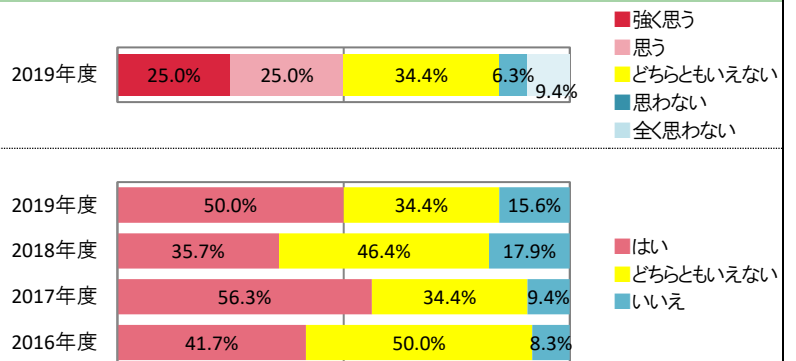


※キャリア女性学副専攻修了者のみ回答

★キャリア女性学副専攻はキャリア設計に役に立ったと思う。

教育	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	8	3	4	15
	思う	8	7	14	
どちらともいえない	どちらともいえない	11	13	11	18
	思わない	2	2	0	3
いいえ	全く思わない	3	3	3	

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



5. 人間社会学部 心理学科

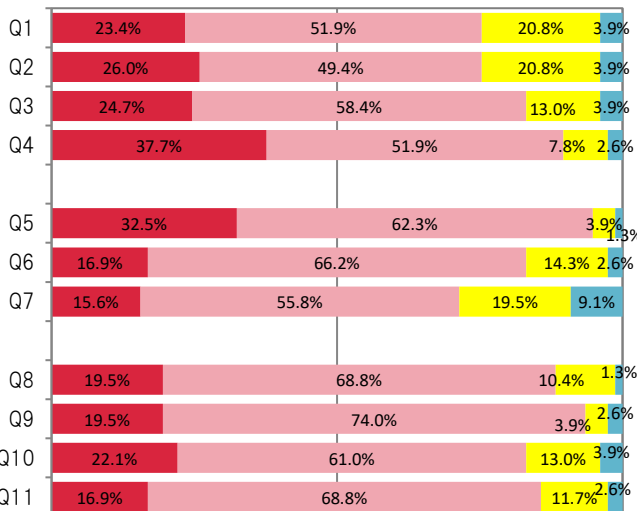
(回収率:88.5%)

<身についたと思いますか>

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 人間社会学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることができる。
Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことができる。
◆ 心理学科の学位授与方針(DP)	
Q8	人間の心の働きとその仕組みを広く学び、それらが生物学的、個人的、社会・文化的諸要因の影響を受けていることを理解し、心に関わる現象を実証的な方法で探求していくことができる。
Q9	人間が示す心理学的現象の法則性を論理的に導き、その意味を、調査や実験に基づいて、生物学的、社会的な観点から洞察することができる。
Q10	心の働きと仕組みに関する基礎知識を基盤として、探究を深める意欲を持つとともに、多様な心的機制的解明に関心を抱き社会貢献に生かしていきたいという意欲を有する。
Q11	人間の普遍的な行動現象を解明できる解析能力とともに、多様な状況にある人々に対して、柔軟に対応できる基礎的技法と表現能力を有する。

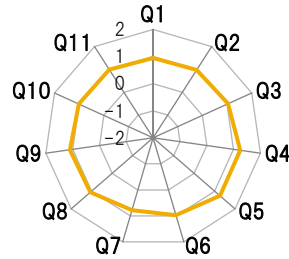
2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11
強く思う	18	20	19	29	25	13	12	15	15	17	13
思う	40	38	45	40	48	51	43	53	57	47	53
どちらともいえない	16	16	10	6	3	11	15	8	3	10	9
思わない	3	3	3	2	1	2	7	1	2	3	2
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない
■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答



2019年度心理学科平均

※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

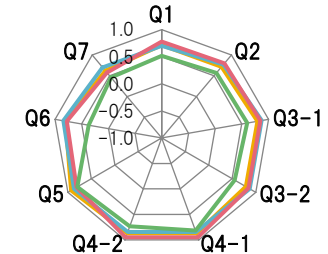


※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

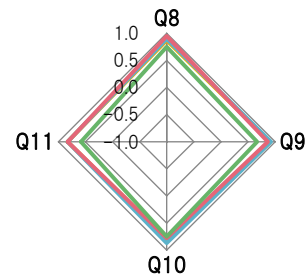
日本女子大学DP(1~4) ・ 人間社会学部DP(5~7)

— 2019年度
— 2018年度
— 2017年度
— 2016年度



心理学科DP(8~11)

— 2019年度
— 2018年度
— 2017年度
— 2016年度

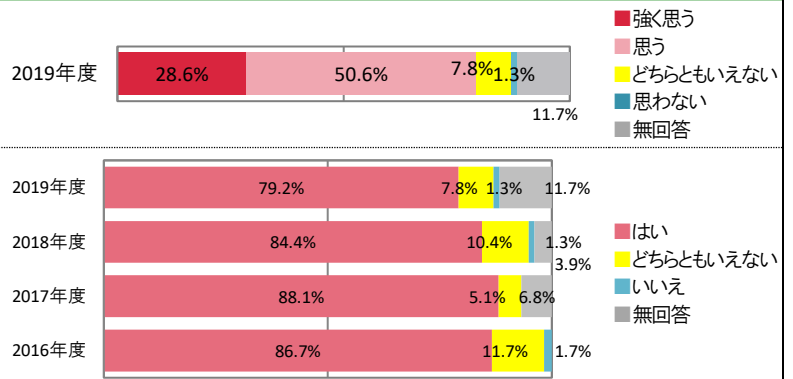


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	ひとりの心の働きとその仕組みを広く学び、それらが生物学的、個人的、社会・文化的諸要因の影響を受けていることを理解し、心に関わる現象を実証的な方法で探求していくことができる。	Q8	人間の心の働きとその仕組みを広く学び、それらが生物学的、個人的、社会・文化的諸要因の影響を受けていることを理解し、心に関わる現象を実証的な方法で探求していくことができる。
Q9	ひとりが示す心理学的現象の法則性を論理的に導き、その意味を、調査や実験に基づいて、生物学的、社会的な観点から洞察することができる。	Q9	人間が示す心理学的現象の法則性を論理的に導き、その意味を、調査や実験に基づいて、生物学的、社会的な観点から洞察することができる。
Q10	心の働きと仕組みに関する基礎知識を基盤として、探究を深める意欲を持ち、多様な心的機制的解明にも関心を抱き社会貢献に生かしていきたいという意欲を有する。	Q10	心の働きと仕組みに関する基礎知識を基盤として、探究を深める意欲を持つとともに、多様な心的機制的解明に関心を抱き社会貢献に生かしていきたいという意欲を有する。
Q11	ひとりの普遍的な行動現象を解明できる解析能力と共に、多様な状況にあるひとひとに対して、柔軟に対応できる基礎的技法と表現能力を有する。	Q11	人間の普遍的な行動現象を解明できる解析能力とともに、多様な状況にある人々に対して、柔軟に対応できる基礎的技法と表現能力を有する。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

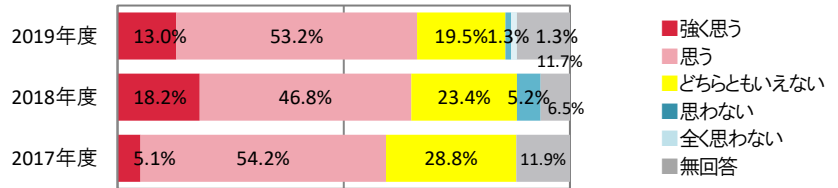
心理	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	22	26	16	52
	思う	39	39	36	
どちらともいえない	どちらともいえない	6	8	3	7
いいえ	思わない	1	1	0	1
	全く思わない	0	0	0	
無回答	無回答	9	3	4	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

心理	2019年度	2018	2017
強く思う	10	14	3
思う	41	36	32
どちらともいえない	15	18	17
思わない	1	4	0
全く思わない	1	0	0
無回答	9	5	7

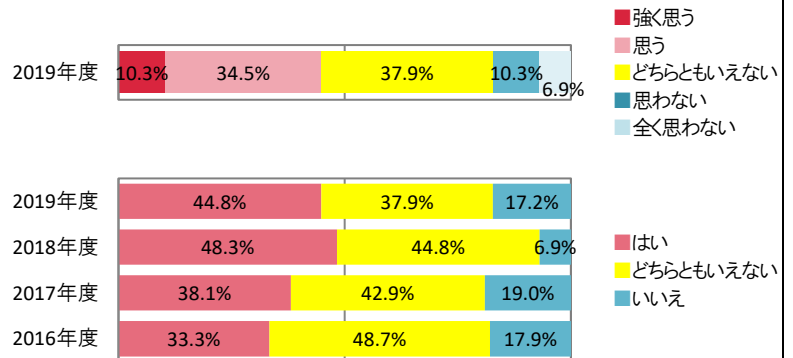


※キャリア女性学副専攻修了者のみ回答

★キャリア女性学副専攻はキャリア設計に役に立ったと思う。

心理	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	3	2	1	13
	思う	10	12	7	
どちらともいえない	どちらともいえない	11	13	9	19
いいえ	思わない	3	1	2	7
	全く思わない	2	1	2	

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



6. 人間社会学部 文化学科

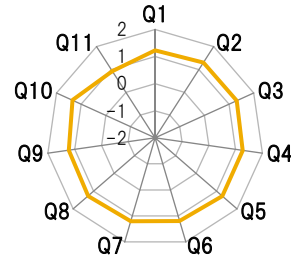
(回収率:61.7%)

<身についたと思いますか>

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 人間社会学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることことができる。
Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことができる。
◆ 文化学科の学位授与方針(DP)	
Q8	自他の文化に関する、その背景知をも含めた、奥行きのある専門的知識と幅広い教養を身に付けている。
Q9	自他の文化の多様性及び相互の関係性について、複眼的・論理的に判断するとともに、創造的に思考することができる。
Q10	多様な文化現象に対して柔軟な理解と共感を示し、常にそれらを学際的な視点から探究しようとする意欲を持っている。
Q11	文化研究を通してえられた認識の成果を論理的にまとめ、国際的な場においても発表することができる言語表現能力を持っている。

2019年度文化学科平均

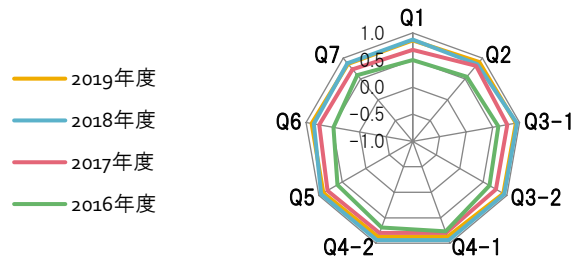
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



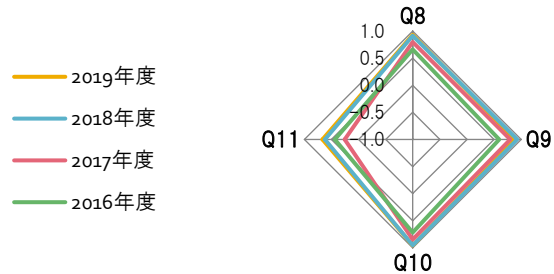
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・人間社会学部DP(5~7)

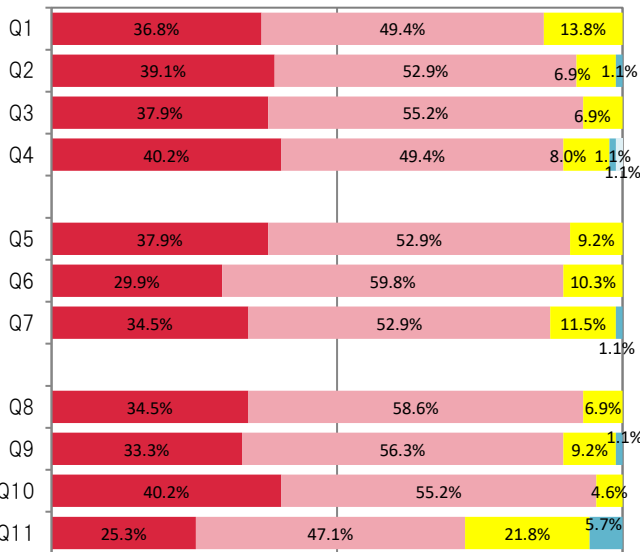


文化学科DP(8~11)



2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11
強く思う	32	34	33	35	33	26	30	30	29	35	22
思う	43	46	48	43	46	52	46	51	49	48	41
どちらともいえない	12	6	6	7	8	9	10	6	8	4	19
思わない	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	5
全く思わない	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない
■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

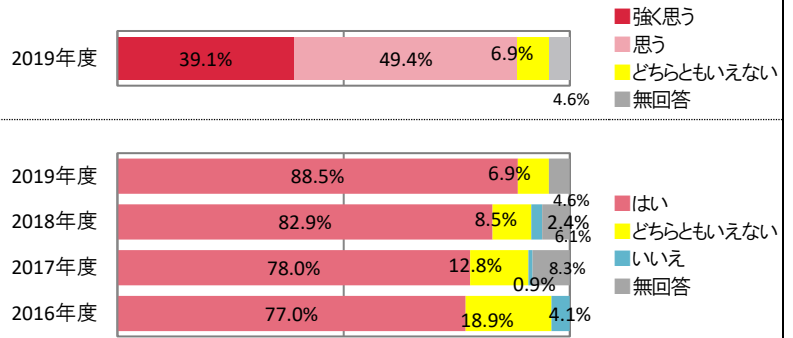


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	自他の文化に関する、その背景知をも含めた、奥行きのある専門的知識と幅広い教養を身に付けている。	Q8	自他の文化に関する、その背景知をも含めた、奥行きのある専門的知識と幅広い教養を身に付けている。
Q9	自他の文化の多様性及び相互の関係性について、複眼的・論理的に判断するとともに、創造的に思考することができる。	Q9	自他の文化の多様性及び相互の関係性について、複眼的・論理的に判断するとともに、創造的に思考することができる。
Q10	多様な文化現象に対して柔軟な理解と共感を示し、常にそれらを学際的な視点から探究しようとする意欲を持っている。	Q10	多様な文化現象に対して柔軟な理解と共感を示し、常にそれらを学際的な視点から探究しようとする意欲を持っている。
Q11	文化研究を通してえられた認識の成果を論理的にまとめ、発表することができる言語表現能力を持っている。	Q11	文化研究を通してえられた認識の成果を論理的にまとめ、国際的な場においても発表することができる言語表現能力を持っている。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

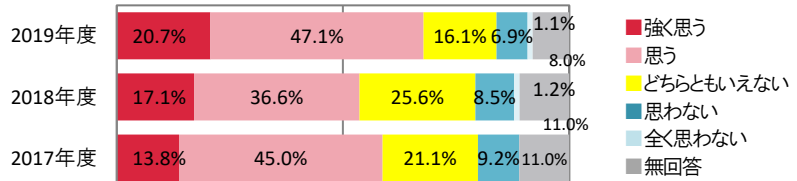
文化	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	34	30	34	57
	思う	43	38	51	
どちらともいえない	どちらともいえない	6	7	14	14
	思わない	0	1	1	3
いいえ	全く思わない	0	1	0	3
	無回答	4	5	9	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

文化	2019年度	2018	2017
強く思う	18	14	15
思う	41	30	49
どちらともいえない	14	21	23
思わない	6	7	10
全く思わない	1	1	0
無回答	7	9	12

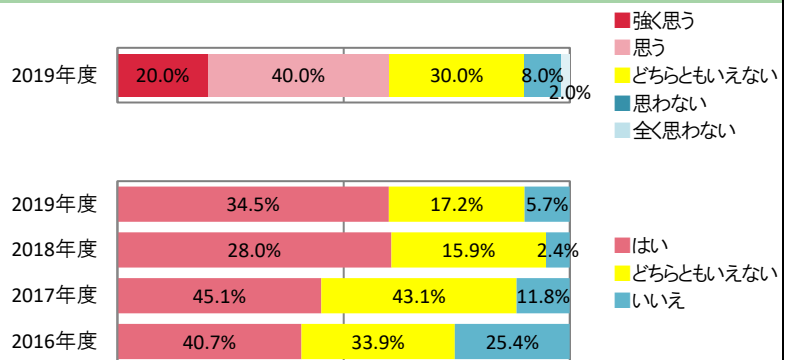


※キャリア女性学副専攻修了者のみ回答

★キャリア女性学副専攻はキャリア設計に役に立ったと思う。

文化	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	10	8	23	24
	思う	20	15	22	
どちらともいえない	どちらともいえない	15	13	6	20
	思わない	4	0	23	15
いいえ	全く思わない	1	2	22	

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



※文化学科のみ回答

① 在学中に半年以上、英語圏の国に留学しましたか。

年度	2019	2018	2017	2016
はい	4	3	1	4
いいえ	60	56	75	70
無回答	23	23	33	0

② 在学中に半年以上、英語圏以外の国に留学しましたか。

年度	2019	2018	2017	2016
はい	2	1	4	3
いいえ	62	58	74	69
無回答	23	23	31	2

③ 在学中の夏季または春季の長期休暇中に、英語圏の国に短期留学しましたか。

年度	2019	2018	2017	2016
はい	10	10	12	12
いいえ	54	48	66	60
無回答	23	24	31	2

④ 在学中の夏季または春季の長期休暇中に、英語圏以外の国に短期留学しましたか。

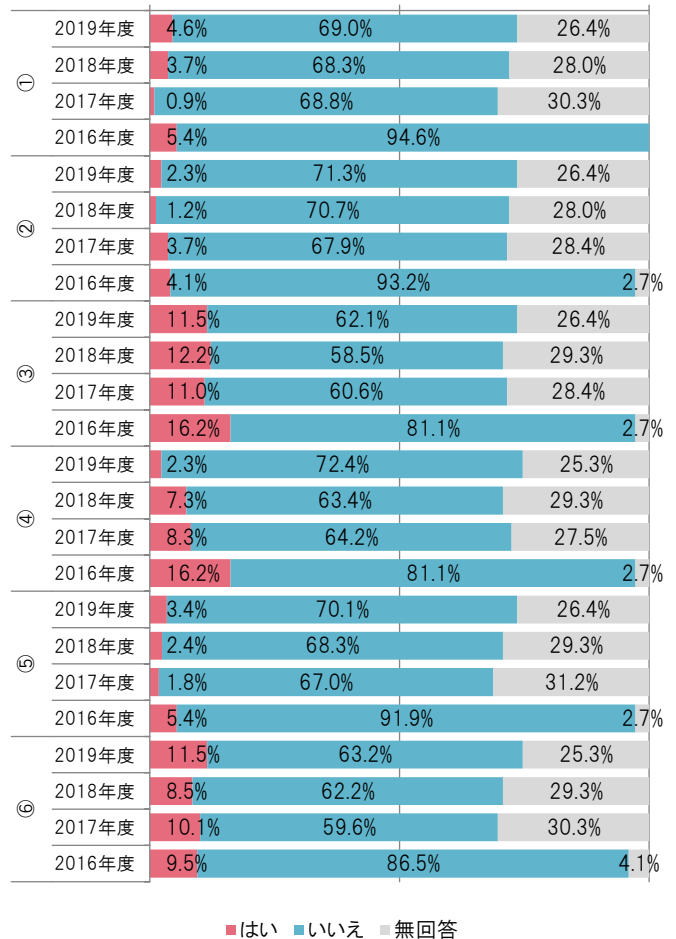
年度	2019	2018	2017	2016
はい	2	6	9	12
いいえ	63	52	70	60
無回答	22	24	30	2

⑤ 在学中に語学留学以外で、半年～1年の海外長期研修(インターンシップ、ボランティア等)に参加しましたか。

年度	2019	2018	2017	2016
はい	3	2	2	4
いいえ	61	56	73	68
無回答	23	24	34	2

⑥ 在学中に語学留学以外で、夏季または春季の長期休暇中に海外短期研修(インターンシップ、ボランティア等)に参加しましたか。

年度	2019	2018	2017	2016
はい	10	7	11	7
いいえ	55	51	65	64
無回答	22	24	33	3



以上<人間社会学部>